

Oracle® WebCenter Sites
Satellite Server のインストール
11g リリース 1 (11.1.1)
部品番号 : B69405-01

2012 年 4 月

Oracle® WebCenter Sites Satellite Server のインストール , 11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69405-01

原本名 : Oracle® WebCenter Sites Installing Satellite Server, 11g Release 1 (11.1.1)

原本主著者 : Tatiana Kolubayev

原本協力者 : Eric Gandt, Gaurang Mavadiya, Yogesh Khubchandani

Copyright © 2012 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、それを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、X/Open Company, Ltd のライセンスによる登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することができます。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

1 Oracle WebCenter Sites: Satellite Server	7
共存	8
リモート	10
2 リモート Satellite Server のインストール	13
手順 1. 必要なハードウェアおよびソフトウェアのインストール	14
ネットワークに関する注意事項.....	14
ロード・バランサ要件.....	14
構成要件.....	14
アプリケーション・サーバー要件.....	14
Satellite Server のコンテンツ.....	15
手順 2. インストール・ファイルの展開	15
手順 3. インストーラの実行	15
手順 4. Satellite Server の WebCenter Sites への登録	23
手順 5. Satellite Server の起動	24
手順 6. 構成のテスト	24
手順 7. 追加のリモート・サーバーへの Satellite Server のインストール	25
次の手順.....	25
3 インストール後の手順.....	27
キャッシングの条件の調整	28
inCache を使用している場合	28
inCache または従来のページ・キャッシングを使用している場合	28
従来のページ・キャッシングを使用している場合	29
ログ構成	30

このガイドについて

このガイドは、共存インスタンスおよびリモート（配信）・インスタンスをはじめとする、Oracle WebCenter Sites: Satellite Server に関する情報を提供します。このガイドでは、配信および WebCenter Sites システムのパフォーマンス最適化のために、サポートされる任意のアプリケーション・サーバーにリモート Satellite Server インスタンスをインストールし、構成するプロセスについても説明しています。

このガイドで説明しているアプリケーションは、旧 FatWire の製品です。命名規則は次のとおりです。

- *Oracle WebCenter Sites* は、以前は *FatWire Content Server* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites* を *WebCenter Sites* と呼ぶこともあります。
- *Oracle WebCenter Sites: Satellite Server* は、以前は *FatWire Satellite Server* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites: Satellite Server* を *Satellite Server* と呼ぶこともあります。

対象読者

このガイドは、インストール・エンジニアと、Oracle でサポートされるアプリケーション・サーバーに対するエンタープライズ・レベルのソフトウェアのインストールおよび構成の経験者を対象としています。

関連ドキュメント

詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- *Oracle WebCenter Sites プロパティ・ファイル・リファレンス*
- *『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』*
- *『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』*

このガイド内の図

このガイドの多くの手順では、その手順を完了するために使用するダイアログ・ボックスおよび類似ウィンドウのスクリーン・キャプチャを示しています。スクリーン・キャプチャは、手順を理解しやすくするために記載しています。パラ

メータ値、選択するオプション、製品バージョン番号など特定の情報を示すことは目的としていません。

表記規則

このガイドでは、次の表記規則を使用します。

- 太字は、ユーザーが選択するグラフィカル・ユーザー・インターフェース要素を示します。
- 斜体は、ドキュメントのタイトル、強調、またはユーザーが特定の値を指定する変数を示します。
- 等幅フォントは、ファイル名、URL、サンプル・コード、または画面に表示されるテキストを示します。
- 等幅太字フォントは、コマンドを示します。

サード・パーティのライセンス

Oracle WebCenter Sites およびそのアプリケーションには、サード・パーティのライブラリが含まれています。詳細は、*Oracle WebCenter Sites 11gR1: サード・パーティのライセンス*を参照してください。

第 1 章

Oracle WebCenter Sites: Satellite Server

Satellite Server は WebCenter Sites システムと連動し、次のメリットをもたらします。

- 追加のキャッシュ・レイヤー。WebCenter Sites のキャッシュで提供されるキャッシュ・レイヤーを補完します。
- スケーラビリティ。Satellite Server のリモート・インストールを追加することで、WebCenter Sites システムに迅速かつ経済的にスケーラビリティを持たせることができます。
- パフォーマンスの向上。Satellite Server は、WebCenter Sites の負荷を軽減し、Web サイトを閲覧する訪問者の近くにコンテンツを移動させることで、Web サイトのパフォーマンスを向上させます。
- REST コールのキャッシュ機能。これにより、コンテンツ管理インストールおよび配信インストールの前面にリモート Satellite Server を追加できます。

この章では、これらのメリットを得るために実装する構成について説明します。次の方法で Satellite Server を構成します。

- **共存。** 第 2 のキャッシュ・レイヤーを提供し、開発システムおよび管理システムでコンテンツのライブ配信をシミュレートできるようにします。
- **リモート。** 配信システムのパフォーマンスおよびスケーラビリティを向上します。

次の各項で、これらの構成および用途について詳しく説明します。

共存

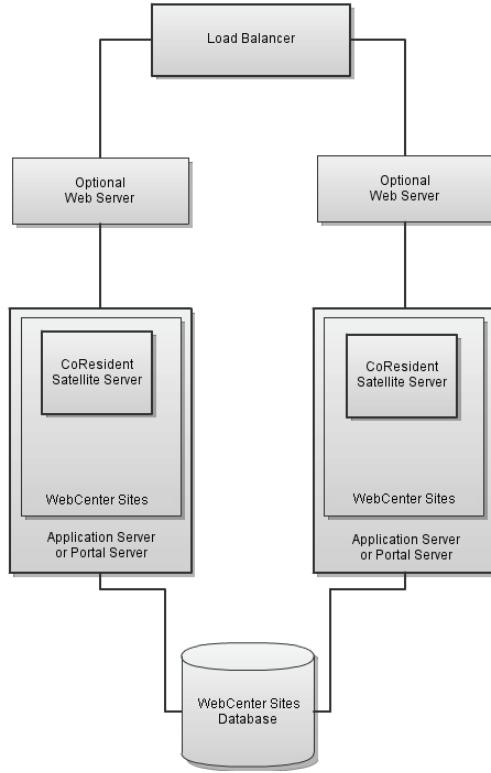
WebCenter Sites には、WebCenter Sites ソフトウェアと同一のマシンに自動的にインストールされ、有効化される Satellite Server のコピーが同梱されています。これが**共存 Satellite Server** です。共存 Satellite Server の目的は、開発システムおよび管理システムに、ライブ・サイト（配信システム）で発生するページ配信をシミュレートする機能を提供することです。

注意

共存 Satellite Server は、配信システム用ではありません。配信には、1つ以上のリモート Satellite Server インスタンスを設定します（[10 ページの「リモート」を参照](#)）。配信システムで共存 Satellite Server を使用すると、システムのパフォーマンスが低下します。

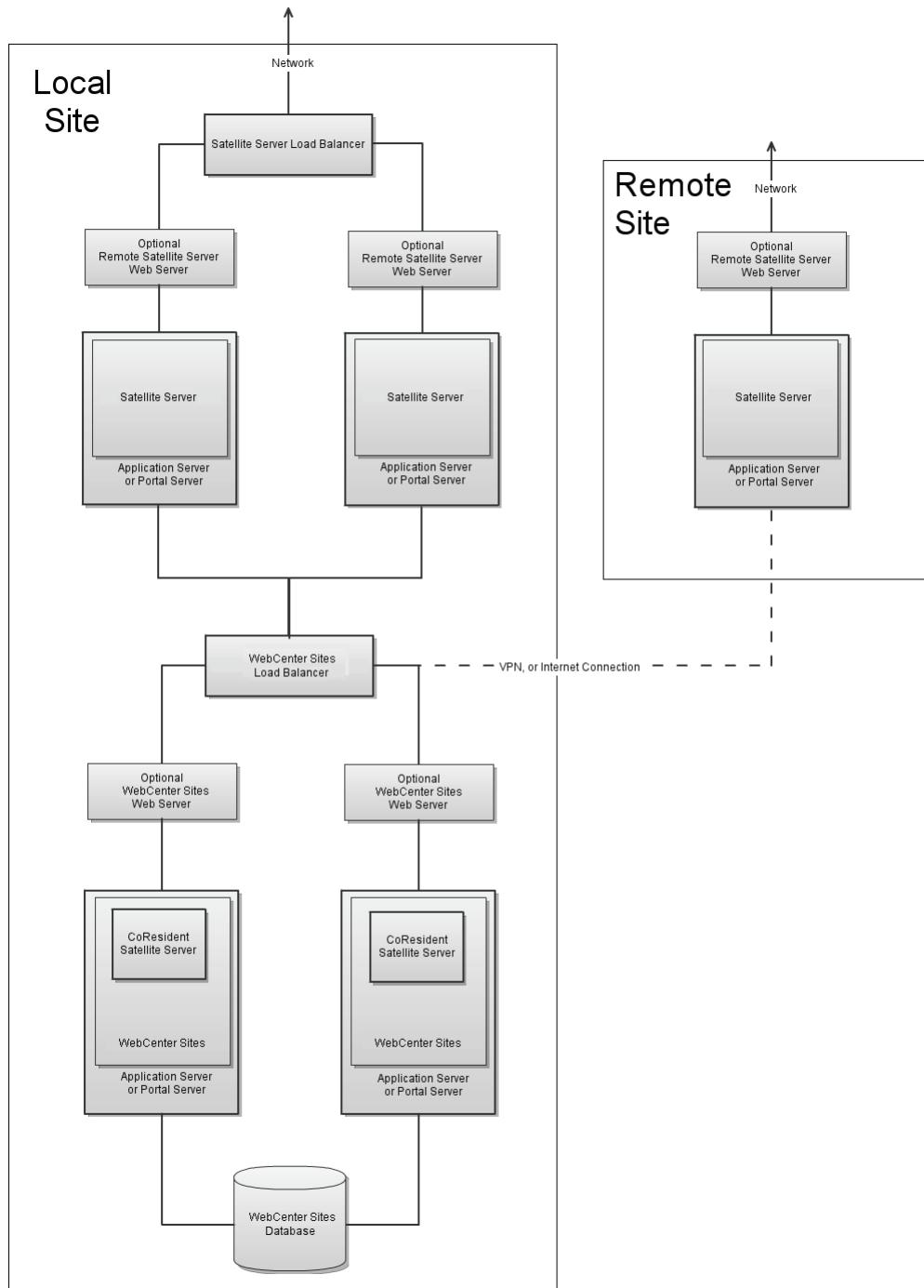
共存 Satellite Server は、WebCenter Sites のキャッシュで提供されるキャッシュ・レイヤーに加えて、キャッシュ・レイヤーを提供します。Satellite Server および WebCenter Sites のキャッシュは連携して、ダブルバッファ・キャッシュを提供します。ダブルバッファ・キャッシュでは、キャッシュされたページのコピーが Satellite Server および WebCenter Sites 両方のキャッシュに保存されます。この構成のデメリットは、この時点で各オブジェクトのコピーが 2 つずつメモリーに保存されるため、メモリー使用率が増加することです。ダブルバッファ・キャッシュの詳細は、『*WebCenter Sites 開発者ガイド*』の「キャッシュ」を参照してください。次の図は、Satellite Server の共存インストールを示しています。

28ページの「キャッシングの条件の調整」の説明に従い、WebCenter Sites システムのパフォーマンスを最適化するために共存 Satellite Server ホストを設定することをお薦めします。



リモート

配信システムでは、1つ以上のリモート Satellite Server インスタンスを設定する必要があります。最低でも、1つのリモート Satellite Server を WebCenter Sites と地理的に同一の場所にインストールする必要があります。地理的に離れた場所でのパフォーマンスを向上させるために、追加のリモート Satellite Server を構成できます。



リモート Satellite Server システムは、サイト訪問者のハードウェアと同様のハードウェアで実行する必要があります。

注意

リモート Satellite Server を使用する配信システムで共存 Satellite Server を介してコンテンツにアクセスすると、システムのパフォーマンスが低下する可能性があるため、お薦めしません。リクエストが直接共存 Satellite Server に送信されなければ、共存 Satellite Server は使用されません（その場合、パフォーマンスは影響を受けず、構成の変更は不要です）。

Satellite Server のリモート・インストールは、ダブルバッファ・キャッシュの実現のほかに、次のようないくつかのメリットをもたらします。

- ユーザーにより近い場所へコンテンツを移動させて Web サイトのパフォーマンスを向上します。たとえば、前述の図では、メイン・データ・センターはニューヨーク市にあり、第 2 データ・センターはヨーロッパおよびアジアにあります。
- キャッシュされたコンテンツにより WebCenter Sites へのリクエストの転送が不要になるため、このリソースを解放して他のタスクを処理することで、スケーリングを改善できます。

Satellite Server のリモート・インスタンスのインストールおよび構成の情報は、[第 2 章の「リモート Satellite Server のインストール」](#) を参照してください。

第 2 章

リモート Satellite Server のインストール

Satellite Server のリモート・インスタンスは、Oracle でサポートされる任意のアプリケーション・サーバーにインストールできます。Satellite Server のリモート・インスタンスのインストールおよび構成は、繰返しのプロセスであることに注意してください。最初に 1 台のリモート Satellite Server のインストール、構成およびテストを実行したら、続いて他のリモート Satellite Server のインストール、構成およびテストを行う必要があります。Satellite Server ソフトウェアのインストールおよび初期構成の完了後は、ハードウェアおよびソフトウェアのスタックを最大限使用できるように構成を調整できます。

Satellite Server のリモート・インスタンスをインストールして構成するには、次の手順を実行します。

- 手順 1. 必要なハードウェアおよびソフトウェアのインストール
- 手順 2. インストール・ファイルの展開
- 手順 3. インストーラの実行
- 手順 4. Satellite Server の WebCenter Sites への登録
- 手順 5. Satellite Server の起動
- 手順 6. 構成のテスト
- 手順 7. 追加のリモート・サーバーへの Satellite Server のインストール
- 次の手順

手順 1. 必要なハードウェアおよびソフトウェアのインストール

Satellite Server をインストールする前に、必要なハードウェアおよびソフトウェアがあることを確認します。最新の情報は、*Oracle WebCenter Sites の動作保証マトリックス*を参照してください。

ネットワークに関する注意事項

Satellite Server ホストと WebCenter Site ホストとの間の接続は、キャッシュにないデータを提供する際のパフォーマンスを制限する要因となります。目的のデータが Satellite Server のキャッシュに存在しない場合、リモート接続により帯域幅および待機時間に関連したパフォーマンスの低下が発生します。

ロード・バランサ要件

複数のリモート Satellite Server を使用する場合は、(ハードウェアまたはソフトウェア・ベースの) ロード・バランサが必要です。特定のロード・バランサを使用する必要はありませんが、セッション・アフィニティをサポートし、セッション・アフィニティ機能が有効化されたロード・バランサを使用することを強くお薦めします。

構成要件

Satellite Server ホストは次の最小要件を満たす必要があります。

オペレーティング・システム	<i>Oracle WebCenter Sites の動作保証マトリックス</i> を参照
アプリケーション・サーバー	<i>Oracle WebCenter Sites の動作保証マトリックス</i> を参照
CPU	デュアル・コア・システム (クアッド・コア・システム以上を推奨)
物理メモリー	4GB (12GB 以上を推奨)
ディスク領域	2GB (4GB 以上を推奨)
JVM	32 ビット (64 ビットを推奨)

アプリケーション・サーバー要件

WebCenter Sites で使用されるデフォルトのキャッシング・フレームワークである inCache では、効率的に機能するために、JVM パラメータを次のように設定する必要があります。

```
-Dnet.sf.ehcache.enableShutdownHook=true
-DnumOfDiskStores=<will vary based on drive speed>
```

`inCache` フレームワークを無効化したり、以前使用していた従来のページ・キャッシングに戻したりするには、次のオプションを使用します。

`-Dcs.useEhcache=false`

デフォルト値は明示的ではなく、`true` に設定されます。

Satellite Server のコンテンツ

Satellite Server は、全機能を搭載したサーブレット・コンテナおよびサーブレット・エンジンを必要とします。サポート環境は、*Oracle WebCenter Sites* の動作保証マトリックスを参照してください。

手順 2. インストール・ファイルの展開

インストール・ファイルの名前は `SatelliteServer.zip` です。このファイルをホスト・マシンで解凍します。

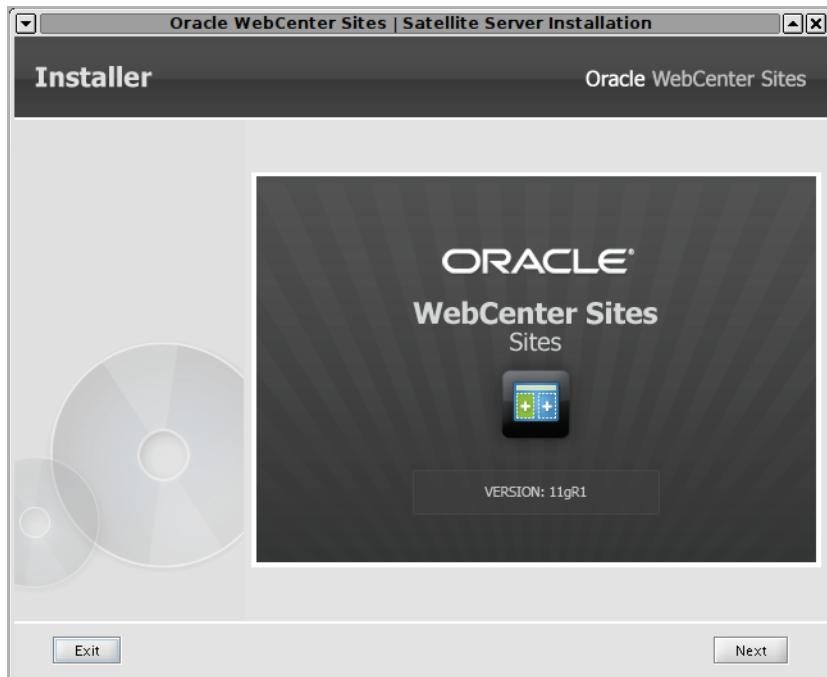
- UNIX: `SatelliteServer.zip` を解凍します。
- Windows: Windows Explorer で `SatelliteServer.zip` をダブルクリックします。

ジップ・ファイルを解凍すると、`SatelliteServer` という名前のサブディレクトリが作成されます。いずれのサブディレクトリの名前も変更せず、アーカイブ・ディレクトリ構造を保持してください。それ以外の場合、インストーラは失敗します。

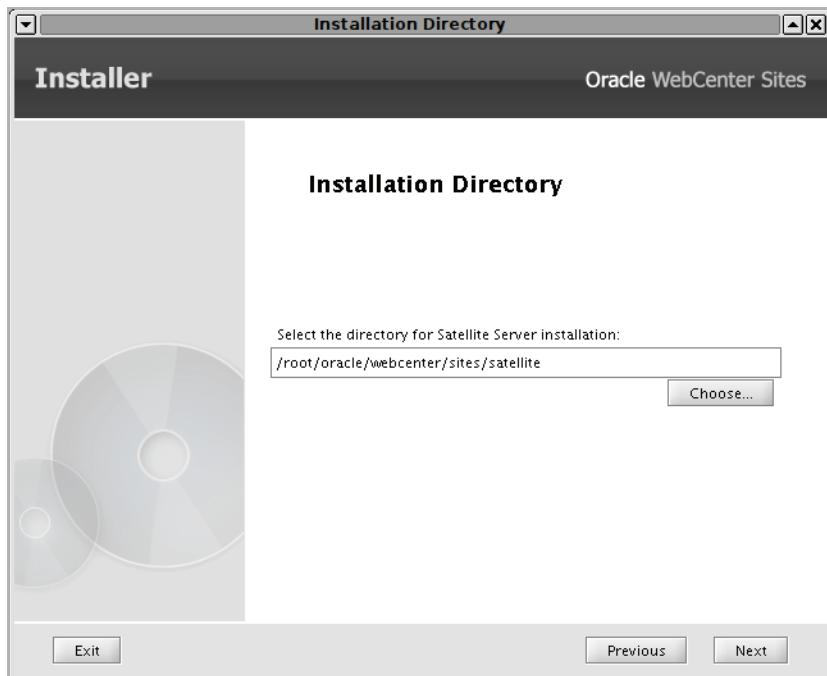
手順 3. インストーラの実行

1. 次のインストーラ・スクリプトを実行します。
 - Windows の場合: `ssInstall.bat`
 - UNIX ベース・システムの場合: `ssInstall.sh`

2. 「ようこそ」画面で「次へ」をクリックします。



3. 「インストール・ディレクトリ」画面で、Satellite Server のインストール先ディレクトリのパスを入力します。必要な権限を持っていることを確認します。指定したディレクトリが存在しない場合は、それを作成する権限を求めるプロンプトが表示されます。



4. インストールする製品を選択します。



5. 目的のプラットフォーム・タイプを選択します。

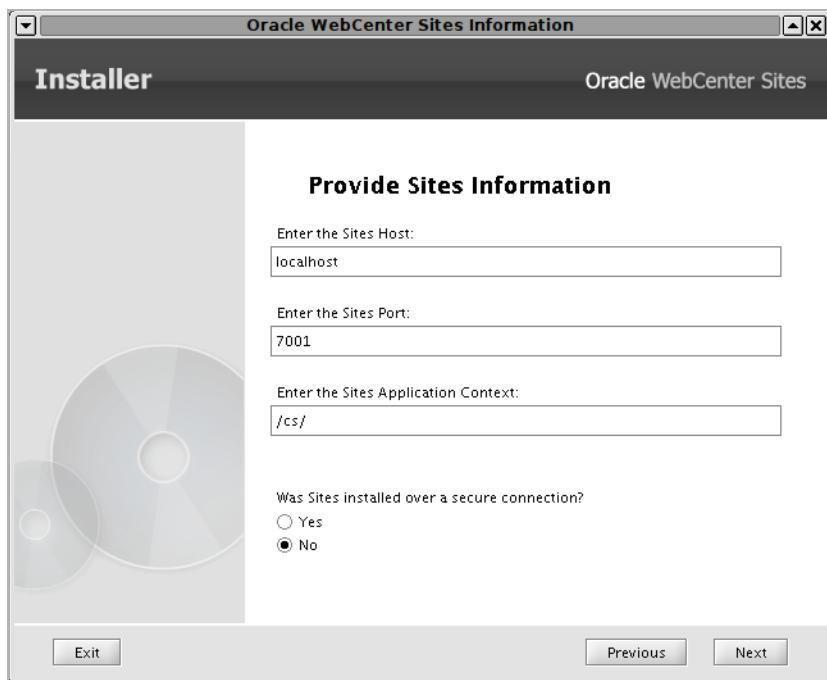


6. 目的のアプリケーション・サーバーを選択し、Satellite Server のコンテキスト・ルートを入力します。



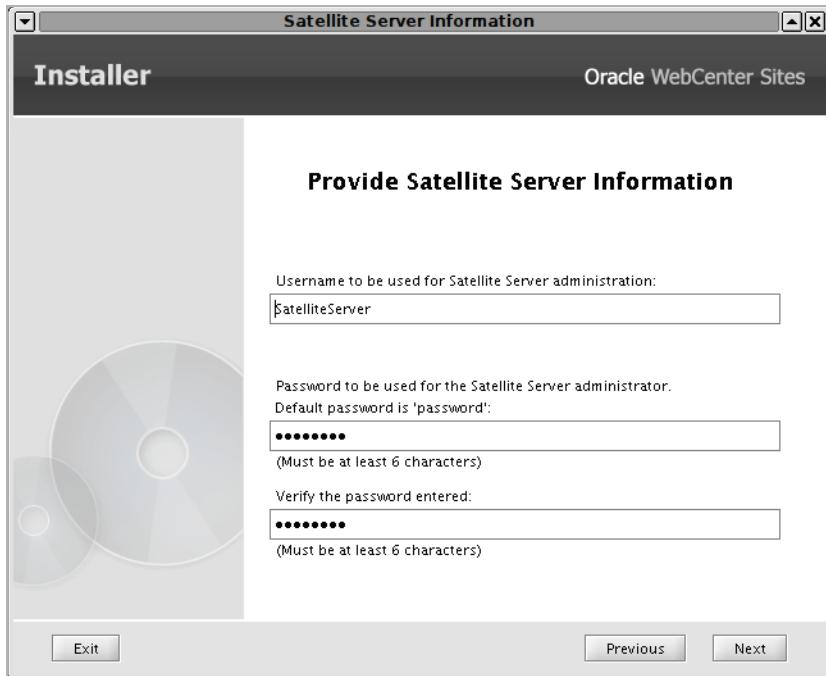
7. 次の WebCenter Sites の情報を入力します。

- WebCenter Sites を実行するマシンのホスト名または IP アドレス
- WebCenter Sites が接続をリスニングするポート番号
- SatelliteServer が接続するアプリケーションのコンテキスト・ルート
- WebCenter Sites がセキュアな接続を介してインストールされたかどうか



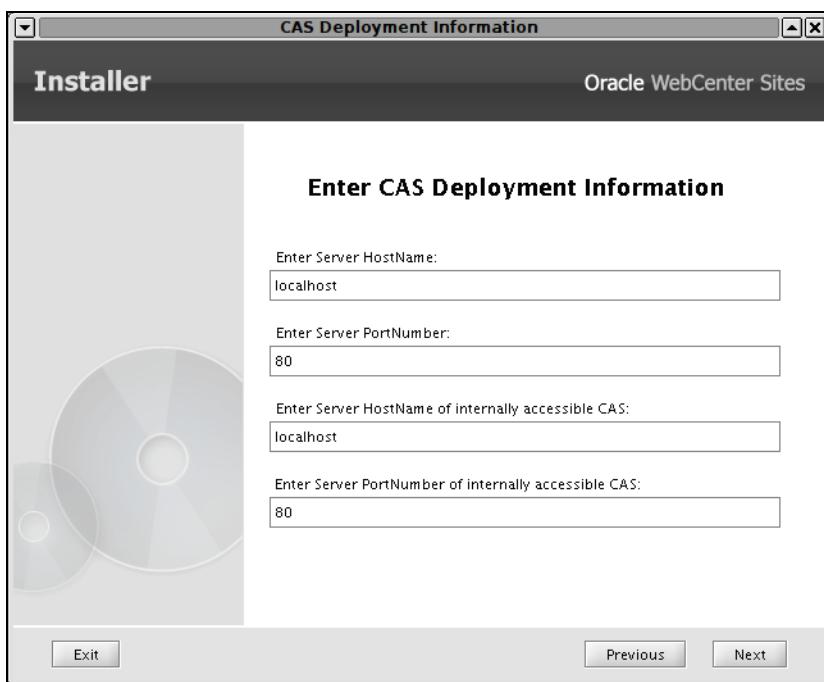
8. 次の Satellite Server の管理アカウント情報を入力します。

- ユーザー名には SatelliteServer を入力します。
- そのユーザーのパスワードを入力します。

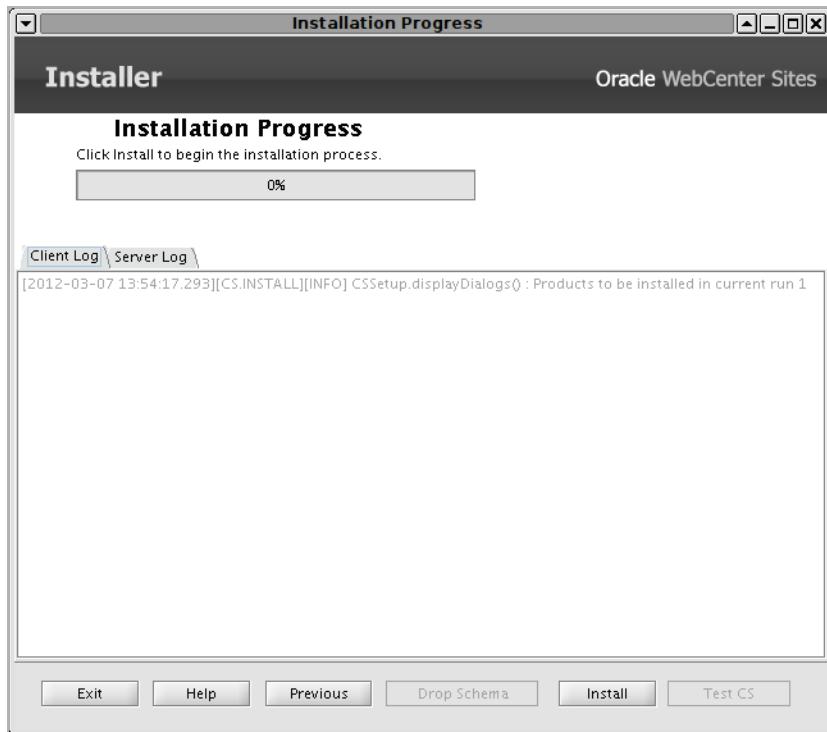


9. 次の CAS デプロイメント情報を入力します。

- 最初の 2 つのフィールド (サーバー・ホスト名およびポート番号) に、 CAS がデプロイされたサーバーのホスト名およびポート番号を入力します。
- 残りの 2 つのフィールド (内部的にアクセス可能な CAS のサーバー・ホスト名およびポート番号) を次のように処理します。前述のサーバーに ファイアウォールの内側からアクセス可能でない場合は、ファイアウォールの内側でアクセス可能なサーバーのホスト名およびポート番号を入力します。それ以外の場合、最初の 2 つのフィールドと同じ情報を入力します。

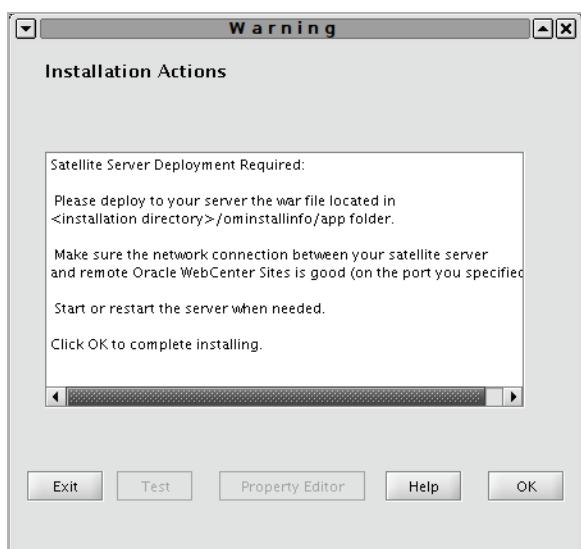


10. 「インストール」をクリックしてインストール・プロセスを開始します。

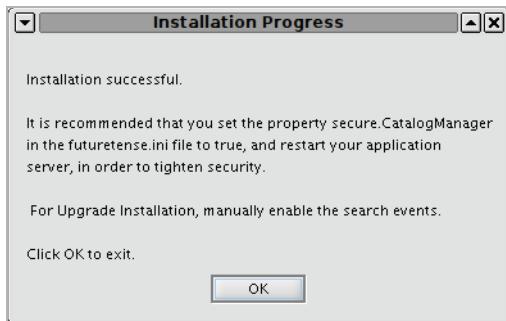


11. Satellite Server をデプロイします。

Satellite Server の war ファイル (デフォルト名 cs.war) は、Satellite Server インストール・ディレクトリの `ominstallinfo/app/` にあります。必要に応じて `cs.war` ファイルの名前を変更し、展開された WAR ファイルをサーバーにデプロイして、サーバーを起動 (または再起動) します。「OK」をクリックしてインストールを完了します。



12. デプロイメントが成功すると、確認ダイアログ・ボックスが表示されます。「OK」をクリックしてインストール・ログを確認します。



13. 「終了」をクリックしてインストーラを終了します。

手順 4. Satellite Server の WebCenter Sites への登録

この手順では、リモート Satellite Server を WebCenter Sites に登録し、WebCenter Sites からリモート Satellite Server のキャッシュを適切に管理できるようにします。すべての Satellite Server インストールは、それぞれの WebCenter Sites インストールへの登録が必要です。

注意

各リモート Satellite Server は、単一の WebCenter Sites インストールのみに関連付けることができます。つまり、同一のリモート Satellite Server を、2つの独立した WebCenter Sites インストール（管理および製品など）に対して使用することはできません。

1. Windows システムから、Sites Explorer を開き、siteGod 権限を持つユーザー（全体管理者またはcontentServer ユーザーなど）として WebCenter Sites にログインします。
2. システム・サテライト・タブをクリックします。
3. 特定の値が移入された表が表示され、各行は個別の Satellite Server システムを表します。それぞれの値については次の表を参照してください。

列	値
id	この Satellite Server を識別する数値（正の整数）です。同じ列内の他の行と同じ値を指定することはできません。
description	この Satellite Server を識別する、ユーザーに対する説明です。参照用にのみ使用します。

列	値
protocol	Satellite Server がリクエストを受け入れるプロトコルです。通常は http になります。
host	Satellite Server のホスト名または IP アドレスです。ロード・バランサではなく、実際の Satellite Server エンジンのホストである必要があります。
port	Satellite Server がリクエストをリスニングするポートです。
satelliteservletpath	ポート番号から Satellite サーブレットの名前までを含む URL の部分です。通常は /servlet/Satellite になります。
flushservletpath	ポート番号から FlushServer サーブレットの名前までを含む URL の部分です。通常は /servlet/FlushServer になります。
inventoryservletpath	ポート番号から Inventory サーブレットの名前までを含む URL の部分です。通常は /servlet/Inventory になります。
pastramiservletpath	ポート番号から Pastrami サーブレットの名前までを含む URL の部分です。通常は /servlet/Pastrami になります。
username	この Satellite Server に割り当てられたユーザー名です。
password	この Satellite Server に割り当てられたパスワードです。 パスワードは入力後、Sites Explorer によって自動的に暗号化されます。

4. 「ファイル」メニューから「保存」を選択して変更内容を保存します。
5. Sites Explorer を終了します。

手順 5. Satellite Server の起動

必要に応じて、アプリケーション・サーバーを再起動します。アプリケーション・サーバーの再起動（またはデプロイ）方法の詳細は、アプリケーション・サーバーのインストレーション・ガイドを参照してください。

手順 6. 構成のテスト

他のマシンに Satellite Server をインストールする前に、新しくインストールされた Satellite Server をテストして、WebCenter Sites と適切に通信することを確認します。Satellite Server をテストするには、コンテンツ管理モードで実行している WebCenter Sites システムからコンテンツをパブリッシュする必要があります。

構成をテストするには：

1. 単一の Satellite Server インスタンスにすべての WebCenter Sites リクエストが送信されるように、ロード・バランサを構成します。
2. ブラウザを使用して、Satellite Server の URL に移動します。たとえば、次のように指定します。

`http://<server>:<port>/<URI>/Satellite?pagename=<MyPage>`

<MyPage> は WebCenter Sites システムの任意のページです。

注意

入力する Satellite Server の URL を見つける最も簡単な方法は、コンソール管理システムのページをプレビューしてその URL をコピーし、リモート Satellite Server を指定するように変更します。

3. すべてを適切に構成すると、選択したページがブラウザに表示されます。選択したページがブラウザに表示されなかった場合は、次のことを確認します。
 - ロード・バランサを適切に設定しているかどうか。このテストでは、WebCenter Sites に対するすべてのリクエストを Satellite Server マシンに送信する必要があることに注意してください。(他のマシンはまだ構成されていないため、これらのリクエストを処理できません。)
 - Satellite Server プロパティを適切に設定しているかどうか。特に、ホスト名およびポート番号が適切な値に設定されていることを確認してください。
 - WebCenter Sites から無効なページをリクエストしていないかどうか。

手順 7. 追加のリモート・サーバーへの Satellite Server のインストール

最初のリモート Satellite Server インスタンスをインストールしてテストしたら、この章の手順を繰り返し、残りの Satellite Server インスタンスをインストールして構成します。

次の手順

[第3章「インストール後の手順」](#) を続行して、キャッシングの条件を調整し、WebCenter Sites システムのパフォーマンスを最適化します。

第 3 章

インストール後の手順

リモート Satellite Server をインストールして構成したら、キャッシングの条件を調整し、WebCenter Sites システムのパフォーマンスを最適化できます。

この章は、次の項で構成されています。

- [キャッシングの条件の調整](#)
- [ログ構成](#)

キャッシングの条件の調整

キャッシングの条件の調整方法は、inCache または従来のページ・キャッシングのいずれのタイプのフレームワークを使用しているかによって異なります。

inCache を使用している場合

inCache フレームワークを使用している場合は、『WebCenter Sites 管理者ガイド』に記載されているプロパティを設定して調整できます。

inCache または従来のページ・キャッシングを使用している場合

inCache または従来のタイプのいずれのキャッシング・フレームワークでも、satellite.properties ファイルの expiration プロパティを設定できます。expiration プロパティは、アイテムを生成した satellite.blob タグまたは RENDER.SATELLITEBLOB タグに BLOB のキャッシングの有効期限が設定されていない場合に、BLOB のデフォルトの有効期限を定義します。

- expiration を never に設定すると、Satellite Server では、BLOB が時間に基づいて失効することはなくなります。しかし、そのようなオブジェクトが無期限にキャッシングに残る保証はありません。たとえば、キャッシングが一杯になると、Satellite Server では LRU (least recently used) アルゴリズムに基づいてキャッシングからオブジェクトがクリアされます。
- expiration を immediate に設定すると、Satellite Server でページ、ページレットまたは BLOB がキャッシングされなくなります。

特定の有効期限の日時を定義するには、expiration プロパティに次のフォーマットを使用する文字列を割り当てます。

hh.mm.ss W/ DD/MM

このプロパティの値は、TimePattern オブジェクトの構文に従います。便宜上、その構文の定義をここに転載します。

表 1: TimePattern 構文

パラメータ	許容値	説明
hh	0-23	時間。たとえば、0 は午前 0 時、12 は正午、15 は午後 3 時を表します。
mm	0-59	正時から経過した分の数値です。
ss	0-59	0 秒ちょうどから経過した秒の数値です。
W	0-6	1 週間の曜日です。たとえば、0 は日曜日、1 は月曜日を表します。
DD	1-31	日付です。
MM	1-12	1 年の月です。たとえば、1 は 1 月、2 は 2 月を表します。

たとえば、次の有効期限の値は、毎週月曜日および 4 月 15 日の午後 3 時 30 分を表します。

15:30:00 1/15/4

*W*および*DD*の両方を指定すると、両方の値が適用されます。したがって、月曜日(*W*フィールド)および15日(*DD*フィールド)にページは失効します。曜日のみを有効期限に指定するには、*DD*フィールドにアスタリスクを設定します。たとえば、4月の毎週月曜日の午後3時30分に有効期限を設定するには、次のように指定します。

15:30:00 1/*/4

日付のみを有効期限に指定するには、*W*フィールドにアスタリスクを設定します。たとえば、4月15日の午後3時30分に有効期限を設定するには、次のように指定します。

15:30:00 */15/4

hh、*mm*、*ss*または*MM*フィールドに設定したアスタリスクは、すべての許容値を表します。たとえば、毎週月曜日および毎月15日の午後3時30分に有効期限を設定するには、次のように指定します。

15:30:00 1/15/*

また、6つのフィールドのうち任意のフィールドで、カンマで区切ることによって複数の値を設定することもできます。値の範囲を表すには、マイナス記号を使用します。たとえば、次の有効期限の値は、6月の月曜日から金曜日までの午前6時、午後1時および午後5時を表します。

6,13,17:00:00 1-5/*/6

15分ごとにページを失効させる必要があることを示すには、次のように指定します。

*:15,30,45:0 */*/*

デフォルト値を次に示します。

5:0:0 */*/*

これは、Satellite Server のキャッシングにあるものはすべて、毎日午前5時に失効することを表しています。

従来のページ・キャッシングを使用している場合

inCache フレームワークが無効化されている場合は(「[アプリケーション・サー
バー要件](#)」を参照)、従来のページ・キャッシングがリストアされるため、*satellite.properties* ファイルにある次のプロパティを設定します。

- *cache_folder*
- *file_size*

cache_folder

このプロパティを使用して、Satellite Server がディスクでページレットをキャッシングするディレクトリを指定します。このプロパティのデフォルト値は空で、Satellite Server はサーブレット・コンテキストの一時ディレクトリを使用します。固有の値を使用するには、選択したディレクトリへの絶対パスを指定します。指定できるディレクトリは1つのみです。*/SatelliteServer* と同一のドライブに存在するディレクトリを指定する必要はありません。パフォーマンス向上させるには、同一のドライブを使用することをお薦めします。

file_size

このプロパティを使用して、ディスク・キャッシュされるページレットおよび BLOB と、メモリー・キャッシュされるページレットおよび BLOB を区別します。サイズはキロバイト (KB) 単位で指定します。デフォルト値は 250 です。

Satellite Server では、任意のページレットまたは BLOB のサイズが `file_size` の値より小さければメモリーにキャッシュされ、ページレットまたは BLOB のサイズが `file_size` の値と等しいかそれより大きければディスクにキャッシュされます。たとえば、`file_size` を 4 に設定します。Satellite Server により、4KB より小さいページレットはメモリーにキャッシュされます。4KB 以上のページレットはディスクにキャッシュされます。

`file_size` を 0 に設定すると、Satellite Server はすべてのページレットおよび BLOB をディスクにキャッシュします。`file_size` を大きな数値 (1,000,000 など) に設定すると、Satellite Server はすべてのページレットおよび BLOB をメモリーにキャッシュします。大容量のメモリーまたは比較的小さな Web サイトであれば、すべてをメモリーにキャッシュすることをお薦めします。

`file_size` プロパティがパフォーマンスに大きく影響する場合があります。パフォーマンスを最適化するには、メモリー・キャッシュの量を最大にします。ホストのメモリー容量を超えないように注意してください。Satellite Server のパフォーマンスを最適化するには、`file_size` プロパティの試行をお薦めします。

ログ構成

Satellite Server では、Apache Jakarta Commons Logging を使用しています。デフォルトでは、固有の JCL 構成情報は指定されていません。その結果、JCL により、INFO、WARN および ERROR のメッセージがコンソールに記録されます。詳細な構成情報を指定するには、`commons-logging.properties` と呼ばれる空ファイルを次のディレクトリに配置します。

```
<$SatelliteServerRoot>/WEB-INF/classes
```

その後プロパティ・エディタを使用してファイルを編集します。プロパティ・エディタにより、各プロパティの詳細なログ構成情報が提供されます。

プロパティ・エディタを開くには、`settings.bat` バッチ・ファイル (Windows の場合) または `settings.sh` スクリプト (UNIX の場合) を実行します。`commons-logging.properties` ファイルを開くと、いくつかのタブが開きます。Loggers タブで、次のエントリが表示されます。

```
com.fatwire.logging.cs.satellite
com.fatwire.logging.cs.satellite.cache
com.fatwire.logging.cs.satellite.host
com.fatwire.logging.cs.satellite.request
```

これらは Satellite Server で使用されるロガーです。各ロガーの情報および使用される値は、プロパティ・エディタのプロパティの説明を参照してください。Factory タブで、Satellite Server で使用するロガーのタイプを選択できます。デフォルトでは、プロパティ・エディタによって次のように設定されています。

```
COM.fatwire.cs.core.logging.TraditionalLog
```

これにより、TraditionalLog タブで構成されているログ・ファイルにログ・メッセージを記録することが可能になります。`(logging.file` プロパティが必要となることに注意してください。)

コンソールにメッセージを送信するには、org.apache.commons.logging.Log プロパティを空白または COM.FutureTense.Logging.StandardLog のいずれかに設定します。設定が完了したら、変更を保存し、プロパティ・エディタを終了し、アプリケーション・サーバーを再起動して Satellite Server を再起動します。JCL の詳細は、<http://jakarta.apache.org/commons/logging/> の JCL Web サイトを参照してください。

